

最新設備で幅広い モデル製作にも意気込む

- 海外発注可
- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンリーワン技術
- メイドインジャパン
- 試作可 小ロット
- 量産対応



独自に品質を高めた樹脂を使用したモデルは、博物館のレプリカにも採用

業務内容 工業用モデルと 機械部品の両輪で展開

昭和44年に神戸市兵庫区で木村登松元社長が工業用材料商社として「大成工材」を創業。昭和46年に石川義昭元社長が事業を引継ぎ、昭和54年に大阪府東大阪市に本社を移転した。石川元社長は営業出身だったが、開発を手がけてみたい思いがあったという。設備の増設を繰り返し、商社からフレキシブルシヤフトなどの金属部品を生産するメーカーへ転換した。

現在は、工業用モデル部門と機械部品部門との2部門体制にしている。モデル製作は機械加工と手作業による加工が中心。コスト削減や短納期の要求に柔軟に対応するため、日々技術革新に取り組んでいる。

強み 気泡が入らない特性で 品質に強み

工業用モデル事業では樹脂内部に発生する気泡を抑えるオリジナルの熱加圧装置を自社で開発した。装置の設計を工夫し、シリコン型に入った状態で圧力と熱を加えながら気泡を抜いていく仕組み。気泡の発生を抑えることで、製品ムラが低減でき、仕上がりが良いため同社製品の評価は高いという。さらに熟練した技術を持つ社員が、色を付けた細かい加工を施して1つの製品を完成させている。

ただ、モデルの生産にあたる社員は40〜50歳代と年齢層が高く技術継承が課題だった。このため、平成28年に久しぶりに新入社員を1名採用した。

設備増設 多様な材料で 仕事の幅広げる

機械部品製造販売部門は現在、中国と台湾に進出しており、平成27年には台湾で

2億円を投じて新工場を設置し小型エンジン用焼結部品生産のため大型の焼結炉を導入した。今後さらに、中国や台湾の拠点を活用していくことを視野に入れていく。海外でモデル向けのデータを編集すればコストメリットが出てくるため、「中国に専門部署を置く可能性はある」と栗原俊哉社長は明かす。また、国内で工業用モデル向けに3Dプリンターを導入するほか機械部品の加工で新たな設備を導入する計画を立てている。栗原社長は、「設備投資を積極的に行っていく。いろんな材料で仕事ができるようになっていく」と意気込む。

今後の展望 金属でモデルを製作

平成28年に金属加工による工業用モデル事業に参入した。同年11月に本社工場（大阪府東大阪市）に5軸制御マシニングセンター（MC）を1台導入。従来は樹脂のモデルのみを手がけていたが、顧客から要望が寄せられており金属のモデル製作を始めることにした。

新たに導入した5軸MCの主軸回転速度は2万4,000回転で、高精度で迅速な加工を目指す。「工業用モデル向けに5軸MCを導入するのは、珍しいケースではないか」と栗原社長は話す。金属部品の加工も手がけていることからモデルの製作以外で活用できることも見ている。



頼らずに
手作業
機械の
にも



樹脂の使用で軽くやわらかい形状が可能に

当社の歴史



昭和44年に「大成工材」を創業。大手農機具メーカー向けの草刈り機用部品など農機部品やエアコン用パーツなどを手がけていました。平成15年に、試作を手がける目的で工業用試作モデルを製造するモナックの全株式をM&A(企業買収)により取得。平成18年に両社を合併し、「大成モナック」に社名を変更しました。

代表取締役 栗原 俊哉さん

<http://www.taisei-monac.co.jp/>

主な事業内容

機械部品製造販売・工業用モデル製造

主な取引先(納入先)

自転車部品メーカー、電機部品メーカー、機械部品メーカー、博物館

- 住所 〒578-0912 東大阪市 角田1-5-8
- TEL 072-966-8885
- FAX 072-966-8860
- 創業 昭和44年7月
- 設立 昭和44年7月
- 資本金 4,000万円
- 従業員 60名

大阪 28